

第158回 日商簿記検定試験 1級 一工業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問 部門別計算（階梯式配賦×複数基準配賦法）

1. 配賦方法

問題文の資料より、配賦方法をまとめると、次のようになる。

	配賦方法
製造部門	予定配賦
補助部門(変動費)	予定配賦（実際供給量を基準）
(固定費)	実際配賦（用役提供能力を基準）

2. 各製造部の正常配賦

第1製造部：正常配賦率 700 円／時間×直接作業時間 997 時間＝	697,900 円
第2製造部：正常配賦率 550 円／時間×直接作業時間 804 時間＝	442,200 円
合 計：	1,140,100 円

3. 補助部門費配賦表（単位：円）

〔資料〕2によれば、事務部は動力部に用役を提供しているが、動力部は事務部に用役を提供していない。したがって、事務部から動力部への配賦は行い、動力部から事務部への配賦は行わない。

	第1製造部		第2製造部		動力部		事務部	
	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費
第1次集計額	484,486	197,523	303,000	119,505	17,640	6,038	14,700	—
事務部費	7,700	—	6,300	—	700	—		
動力部費	7,860	2,352	10,480	3,528	18,340	6,038		
第2次集計額	500,046	199,875	319,780	123,033				
合計 699,921 円		合計 442,813 円						

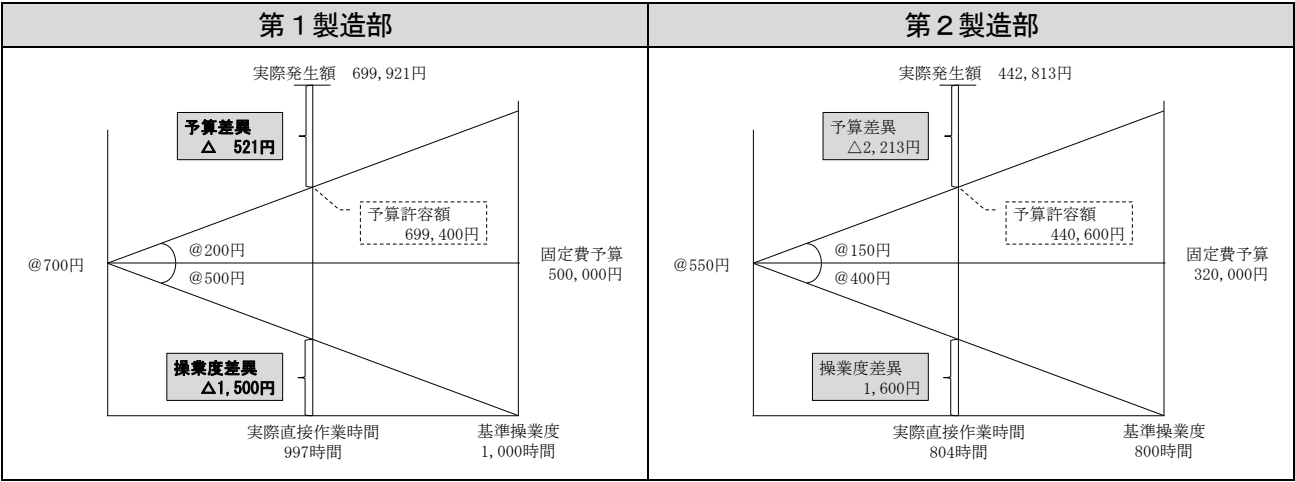
事務部
(固定費) : $\frac{\text{事務部固定費実際額 } 14,700 \text{ 円}}{\text{従業員数合計 } 110 \text{ 人} + 90 \text{ 人} + 10 \text{ 人}} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{第1製造部 } 110 \text{ 人 } \quad 7,700 \text{ 円} \\ \text{第2製造部 } 90 \text{ 人 } \quad 6,300 \text{ 円} \\ \text{動力部 } 10 \text{ 人 } \quad 700 \text{ 円} \end{array} \right.$

動力部
(固定費) : $\frac{\text{事務部固定費実際額 } 17,640 \text{ 円} + 700 \text{ 円}}{\text{動力供給能力合計 } 3,780 \text{ kW-h} + 5,040 \text{ kW-h}} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{第1製造部 } 3,780 \text{ kW-h } \quad 7,860 \text{ 円} \\ \text{第2製造部 } 5,040 \text{ kW-h } \quad 10,480 \text{ 円} \end{array} \right.$

動力部
(変動費) : $\frac{\text{動力部変動費予算額 } 74,088 \text{ 円}}{\text{動力供給能力合計 } 3,780 \text{ kW-h} + 5,040 \text{ kW-h}} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{第1製造部 } 280 \text{ kW-h } \quad 2,352 \text{ 円} \\ \text{第2製造部 } 420 \text{ kW-h } \quad 3,528 \text{ 円} \end{array} \right.$

* 問題文の指示にしたがい、変動費に関しては予定配賦による。

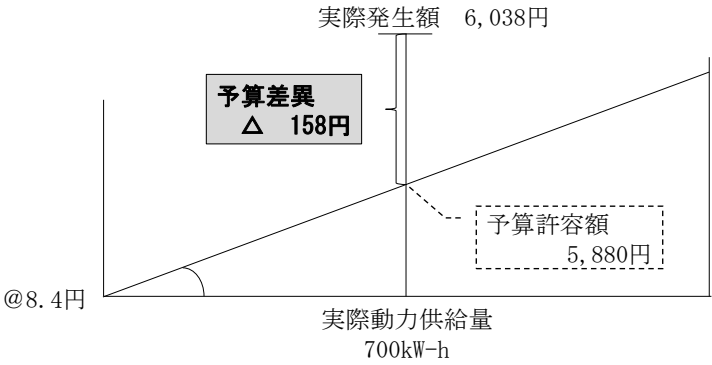
4. 製造部門の差異分析



＊ 基準操業度 第 1 製造部：12,000 時間÷12 か月＝1,000 時間
第 2 製造部：9,600 時間÷12 か月＝800 時間

5. 補助部門の差異分析

動力部の変動費のみ、予定配賦を行っているため、これについて差異分析を行う。



＊ 変動費予定配賦率

$$\frac{\text{動力部変動費予算額 74,088 円}}{\text{動力供給能力合計 3,780kW-h} + \text{5,040kW-h}} = @8.4 \text{ 円/kW-h}$$

＊ 実際動力供給量：第 1 製造部 280kW-h + 第 2 製造部 420kW-h = 700kW-h

6. 製造間接費勘定

- (1) 予定配賦額：上記 2 の合計額 1,140,100 円
 - (2) 操業度差異：上記 4 の操業度差異合計額 100 円（有利差異）
 - (3) 予算差異：上記 4 の予算差異合計額 2,734 円（不利差異）
- + 上記 5 の予算差異 158 円（不利差異）＝2,892 円

7. 正誤判定

① 正誤「○」

用役を実際に消費した割合でもって補助部門費をすべて製造部門に配賦したとしても、すべての部門費勘定を総括する製造間接費勘定で生じる製造間接費配賦差額は変わらない。この点は問6で作成した製造間接費勘定を参考にしてほしい。

② 正誤「○」

事務部と動力部の両部門相互の用役授受の事実がないため、事務部を先順位、動力部を後順位とする階梯式配賦法を用いても連立方程式法による相互配賦法を用いても、第1製造部と第2製造部おのおのへの当月の配賦額は結果として同じになる。

③ 正誤「○」

階梯式配賦法によった場合、動力部は事務部費の配賦を受けるが、事務部費は固定費しかないため動力部の変動費額には反映されない。そのため、そのため、階梯式配賦法と直接配賦法のどちらを選択しても、動力部費のうち変動費部分の第1製造部と第2製造部おのおのへの当月の配賦額は同じである。

第2問 材料費会計

1. 仕入額の会計処理

(借) 材	料	1,600,000	(貸) 買	掛	金	1,607,200
(〃) 受 入 価 格 差 異		7,200				

* 仕入額（予定価格で計算）

6日 900kg×予定価格 1,000 円/kg=900,000 円

20日 700kg×予定価格 1,000 円/kg=700,000 円 合計 1,600,000 円

* 仕入額（実際価格で計算）

6日 900kg×実際価格 1,050 円/kg=945,000 円

20日 700kg×実際価格 946 円/kg=662,200 円 合計 1,607,200 円

2. 消費額の会計処理

(借) 仕	掛	品	1,300,000	(貸) 材	料	1,550,000
(〃) 製 造 間 接 費			250,000			

* 直接消費額（予定価格で計算）

10日 800kg×予定価格 1,000 円/kg=800,000 円

24日 500kg×予定価格 1,000 円/kg=500,000 円 合計 1,300,000 円

* 間接消費額（予定価格で計算）

14日 100kg×予定価格 1,000 円/kg=100,000 円

28日 150kg×予定価格 1,000 円/kg=150,000 円 合計 250,000 円

3. 棚卸減耗の会計処理

(借) 棚 卸 減 耗 引 当 金 2,000 (貸) 材 料 2,000

＊ 帳簿棚卸高 250kg－実地棚卸高 248kg＝2kg

＊ 棚卸減耗 2kg×予定価格 1,000 円/kg＝2,000 円

4. 受入価格差異の配賦

材料受入価格差異は、会計年度末において材料期末在庫と払出高に配賦されるが、本問では解答欄に「受入価格差異」の記載があるため、月次で配賦を行うものと判断する。

(借) 材 料 992 (貸) 受 入 価 格 差 異 992

＊ 受入価格差異配賦額の計算

$$\frac{\text{受入価格差異 7,200 円}}{\text{前月繰越数量 200kg} + \text{実際仕入数量 1,600kg}} \times \text{月末実地棚卸数量 248kg} = 992 \text{ 円}$$

5. 次月繰越額の計算

月末実地棚卸高 248kg×1,000 円/kg + 材料受入価格差異配賦額 992 円＝248,992 円